



広酪本所会場



広酪本所会場



東部倉庫会場

四月十五日、ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル(岡山県)において開催された第五十一回西日本酪農青年女性会議・酪農発表大会(西日本酪農青年女性会議(委員長:砂子拓也)に広酪メンバーズクラブから出場された新舎和久さん(合同会社久井高原牧場)が経営発表の部において、最優秀賞を受賞され、全国大会への出場権を手に入れました。広島県からの経営発表の部での全国大会出場は、平成七年度第二十七回大会の和田慎吾さん以来の快挙です。

この出場にあたって新舎和久さんと、主体的なサポートにあたった加藤祐一主任(経営支援課、広酪メンバーズクラブ事務局担当)の両名は、昨年の発表大会への出場を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて中止が決定し、今回も取戻の兆しがないうちで感染対策を講じた上での開催が決定され、出場者も地元からのリモート出場等によって、その映像は各会員に放映され、広酪メンバーズクラブでは、広酪本所や東部倉庫を会場に応援者が集い熱い応援が贈られました。



号外

酪農コミュニケーション情報誌
Dairy farming Communication
Information magazine Rakunou-Dayori

2021年(令和3年)4月[No.325]

HIORAKU らのうだより

新舎和久さん 西日本酪農経営発表「最優秀賞」 広島から26年ぶりに全国大会へ

発表概要

第三者継承による酪農経営の継続・耕畜・関係機関との連携

「感謝」の気持ちとともに

牧場取得への熱い思いと決意から始まる

新舎さんが営む合同会社久井高原牧場は、前進の牧場経営主の叔父が、平成十九年に他界され、牧場を継承した親族が第三者売却を示唆されたことから、長年従業員として勤めてきた思い入れから牧場取得を決意されました。

広酪を始めとした関係機関の支援が糧に

この思いを汲み取り、広酪をはじめ、行政や金融機関、関係機関を集めてのプロジェクトや協議会の設立から検討を重ねて合同会社を設立。平成二十一年五月に経営をスタート。自らの牧場を手に課題であった粗飼料を改善すべく自給粗飼料から地元の集落営農法人と連携して、転作田を活用した飼料用稲の栽培に着目し、飼料用稲を最大限に活用した飼料給与体系を確立変更。これには、地元行政の広島県立畜産技術センターの指導を受けて、乳量・乳質・繁殖面で顕著な改善が見られました。更に飼料用稲の品質向上のため、耕種農家や酪農家等と連携し、より良いものを作られるよう努力を重ねてこられました。

地域密着と貢献を胸に

毎年、広島市内の小学校からの牧場見学を受け入れ、バター作り体験等から「酪農とはどのようなものか」、「牛乳はどのように搾られるのか」、子供達とのふれあいの中で、入植を決意した初心を忘れず、地域に根付いた酪農を目指し、地域行事には積極的に参加されています。合同会社のスタートから十年以上が経過する中、新舎さんは「今があるのは奥様、先輩方や地域・関係機関・広酪の方々が自分の支えになってくれたこと、そして、今も変わらず多方面から支援頂けることにある。この感謝の気持ちを胸に自らも次世代を担う若者が酪農に興味を持って、「就農に向けた繋ぎ役」、「橋渡し役」として存在になりたい」と熱い思いを訴えられました。

後継牛の安定的確保に精判別精液

飼養頭数約四十八頭に対して、年間約十五頭の後継牛確保を目指し、積極的に雌雄判別精液を活用。未経産牛のみならず、経産牛にも授精を試み、深部注入による受胎率向上を実現されました。

経営の安定化に和牛生産

和牛受精卵を活用し、交雑種よりも高値で取引される和牛受精卵産子を増

講評「新舎さんを全国で紹介したい」

審査委員長の井上善行(農林水産省中国四国農政局生産部畜産課課長)氏は、講評の中で、「酪農経営の収益性」、「経営の安定性と発展性」、「飼養管理技術水準」、「資源循環型酪農の実践」、「食品の安全性への配慮」、「地域活動への貢献」の六項目から審査にあたり、会社経営であることから経営の透明性、計



画性が担保され、秀でた粗飼料の通年給与、生産管理シートの確実な実施を通じて、一頭あたりの乳量一万kgの確保、雌雄判別精液による後継牛確保、和牛生産による収益の向上、その結果、所得率約二十%での安定化、飼養管理技術水準では性別別精液利用における深部注入法による受胎率向上などの繁殖成績の改善が実施されている。資源循環型酪農の実践は、耕種農家との話し合い、堆肥を施肥した飼料用稲の生産拡大、稲WCSの実現、食品の安全性への配慮では、綺麗な牛舎を保ち、新たなミルクを導入し、その連動データを活用した従事者間での共有、徹底した生産管理を実践している。また、地域活動への貢献では、地域小学生への農業体験を実施し、バター造りを通じた酪農理解醸成を深めた地域に根ざした取り組みを実践されている。総体的に盤石な経営をされている新舎さんの経営を広く全国で紹介したい。」と高く評価されました。



広島・西日本の代表として新舎さんにエールを

新舎さんは、西日本地区の酪農家を代表して、七月十五日、江陽ランドホテル(仙台市)で開催される第四十九回全国酪農発表大会に出場予定です。開催にあたっては、新型コロナウイルスによる感染状況を考慮され、出場者のみの現地開催を基本にリモート形式による視聴方法が検討されており、後日、広酪メンバーズクラブからご案内しますので、ぜひ応援を宜しくお願いたします。